

中野駅周辺エリアマネジメントビジョンの検討状況について

中野駅周辺では、区全体を持続可能な活力あるまちへけん引する区を中心拠点、多様な都市機能が集積した「新たな活力とにぎわいのシンボル」となる先進的なまちづくりが進められている。こうした動きを契機として、中野駅周辺を中心としたまちの魅力や価値を維持向上させていくため、今後も市街地開発事業等、ハードのまちづくりの着実な推進を図っていくとともに、中野駅周辺で展開するエリアマネジメントの仕組みや推進体制の確立といったソフトの取組を総合的に進めていく必要がある。

そこで令和4年4月に各開発地区の事業者や地域の関係者等をつなぐプラットフォーム機能として、中野駅周辺エリアマネジメント協議会が設立された。

その後、区を当協議会の事務局としてビジョン検討のための運営会議を開催し、まちの将来像やその実現に向けた取組みについて協議を重ねてきた。このたび、ビジョン（たたき台）をとりまとめたので、報告する。

1. 中野駅周辺エリアマネジメントビジョン検討のための運営会議等の概要

ビジョン検討のための運営会議における協議経過は、下記のとおり。

令和4年 8月10日	第1回運営会議の開催 [意見交換] ○ビジョン策定に向けた取組み背景、今後の検討の進め方
8月～9月	構成員への個別ヒアリング
9月29日	第2回運営会議の開催 [主な検討内容] ○個別ヒアリング結果に基づく、将来像やその実現に向けた取組み、推進体制イメージ
10月25日	第3回運営会議の開催 [主な検討内容] ○第2回運営会議における議論を踏まえた、将来像やその実現に向けた取組み
11月18日	第4回運営会議の開催 [主な検討内容] ○これまでの運営会議における議論を踏まえた、将来像やその実現に向けた取組み
12月15日 12月16日	アクション検討プレストの開催 [意見交換（グループワーク形式）] ○将来像の実現に向けた取組み

2. 中野駅周辺エリアマネジメントビジョン（たたき台）

別紙のとおり

3. 今後の予定

令和5年 1月	パネル展の開催 ビジョン（たたき台）に対する意見募集
令和5年 3月	ビジョン（案）を議会報告 第5回運営会議の開催 中野駅周辺エリアマネジメントビジョンの策定
令和5年度	中野サンプラザの閉館に係る、にぎわい創出に向けた 取組みの実施 ビジョンに基づく具体的な方策（アクションプラン 等）の検討

中野駅周辺エリアマネジメントビジョン(たたき台)

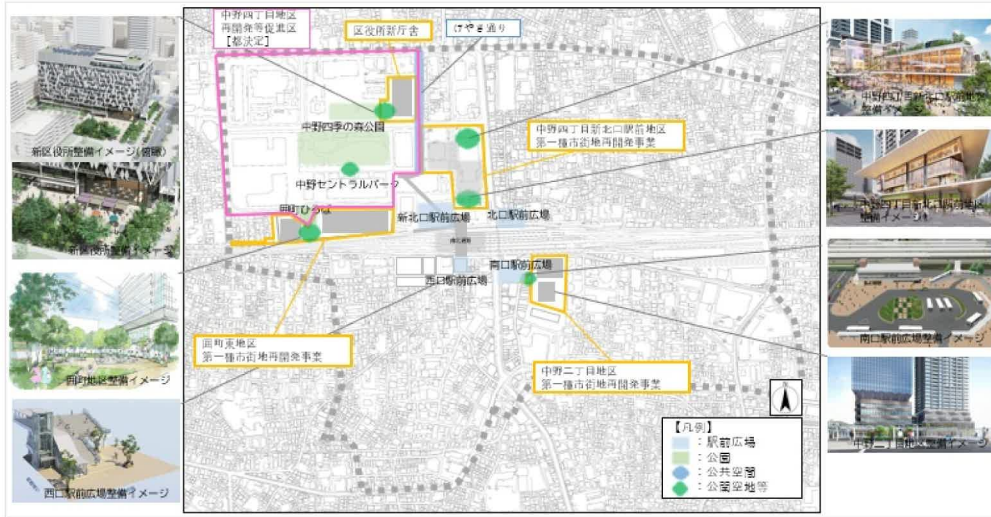
はじめに

大きなハード面の変化を迎える中野駅周辺エリア

中野駅周辺においては2012年、他地区に先行して「中野四季の都市」の整備が進められました。2030年までに11の開発事業が予定されています。

それにより今後、開発の進展による新たなオープンスペースの創出、人口増などの変化が見込まれます。また、各地区における開発は、開発事業者が異なるため、各地区が分断することなく、連携を図る必要があります。

エリア図 (2030年のまちの様子)



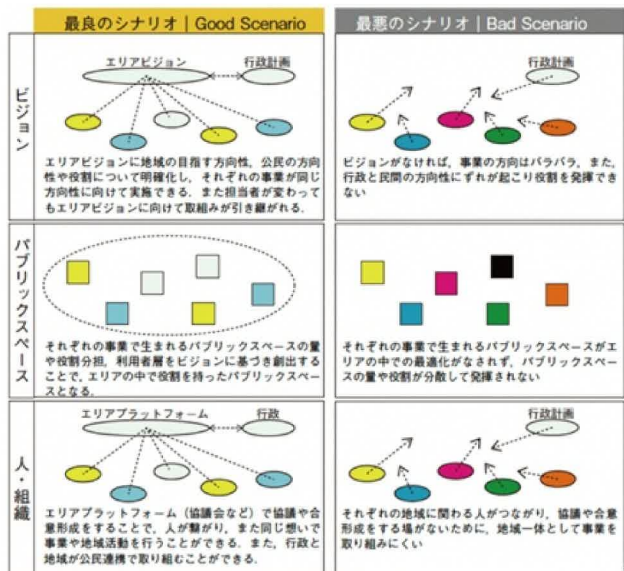
中野駅周辺エリアマネジメントビジョン(たたき台)

中野駅周辺エリアマネジメントの必要性

エリアマネジメントとは「地域価値向上のための住民・事業主等の主体的な取組み」です。中野駅周辺においては様々な社会環境などの変化に対応するため、**まちに関わる様々な主体が、方向性を共有しながら取組を進める**必要があります。

2030年の視点に立ち、今～未来を考える

2030年には中野駅周辺エリアの開発が完了し、新たなまちの姿に変わり、中野駅周辺エリアは新たなまちづくりのスタートラインに立ちます。すなわち、2030年は中野駅周辺にとって1つのマイルストーンになる年であり、本ビジョンにおいては2030年の視点に立って将来像を描き、将来像の実現に向けて今必要なこと、また今後必要なことを考えていきます。



最良のシナリオ・最悪のシナリオ

中野駅周辺エリアの将来像

3

中野駅周辺エリアの将来像

寛容性が生み出す 日本一多様な文化のまち・中野

～中野に暮らす人、働く人、訪れる人が誇りを掻き立てられるまち～

中野のまちの強みである寛容性

中野駅周辺エリアはこれまでの歴史の中で、新たなヒト・モノ・コトを受け入れ、雑多な、言い換えると多様性のある独自の文化や魅力を築いてきました。そのような**寛容性**はまちの特徴であり、強みです。これからの変化においても、その寛容性を活かして多様な、他にはない新たな文化や魅力を生み出していきます。

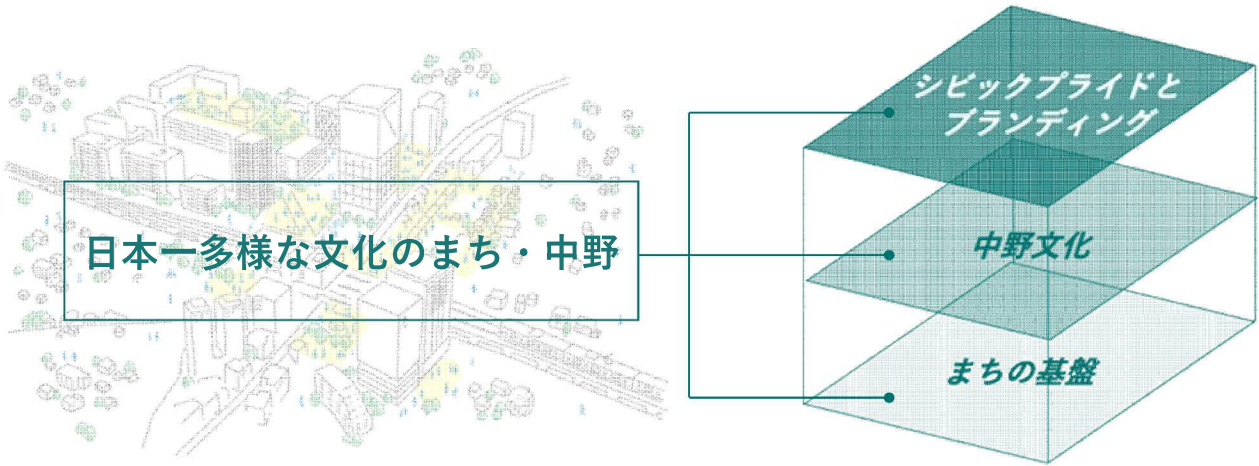
誇りを掻き立てられるまちへ

中野のまちの寛容性を活かし、新たな文化や魅力を生み出すことで、**まちに暮らす人、働く人、訪れる人**が誇りを掻き立てられるような「躍動感」を持ったまちを、公民が一枚岩となって目指します。

4

中野駅周辺エリアマネジメントビジョン(たたき台)

将来像の構成要素として、3つのレイヤーを設定しています。

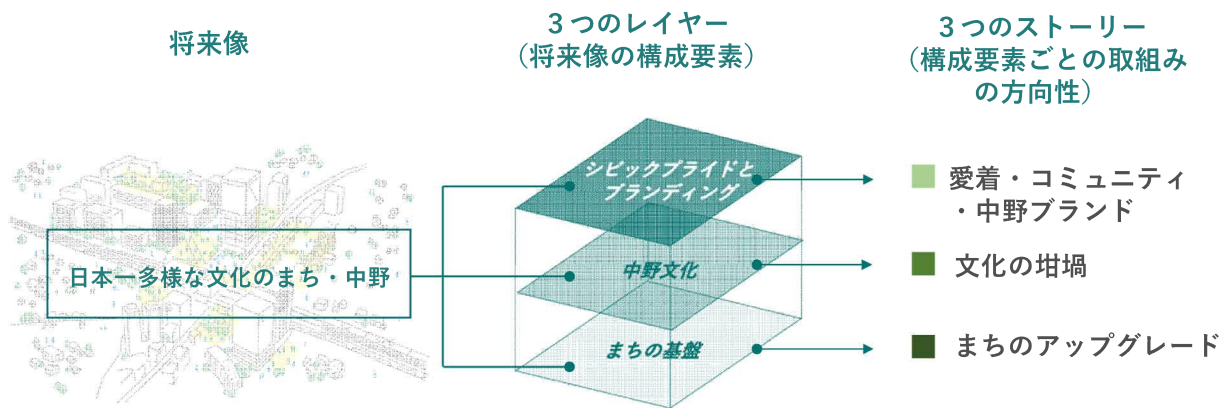


- ・これまで築き上げてきた中野の文化・魅力の継承と、新たな中野の文化・魅力の創出
- ・各地区開発などまちの大きな変化を迎える上で、さらに新しい文化を生み出すための「まちの基盤」整備
- ・中野のまちの魅力を内外に発信し、「シビックプライド」の醸成と「ブランディング」を実現

3つのレイヤーが重なり合うことで、将来像を実現し、中野駅周辺のまちの魅力をさらに高めていきます。

中野駅周辺エリアマネジメントビジョン(たたき台)

さらに、3つのレイヤー（構成要素）ごとに、取組の方向性を設定しています。ビジョンでは、取組みの方向性を「ストーリー」と表現しています。



ストーリー（取組みの方向性）

- 文化の増埒
- まちのアップグレード
- 愛着・コミュニティ・中野ブランド

ストーリー（取組みの方向性）の内容

- 中野二・三・四・五丁目地区の文化・魅力を生み出し、磨き、つなぐ
(地域、企業が連携した中野文化活動の推進・各地区イベントの連携・チャレンジ)
- 中野の良さは残しながら、文化を支えるための、中野のまちとしての基盤をつくる
(東西南北の回遊性・パブリックスペース活用・安心安全・テクノロジー)
- ふるさとへの愛着、コミュニティの継承、これからの中野ブランドの発信
(*インナーブランディングとアウトナーブランディング)

*インナー：中野のまちで暮らす人、アウトナー：中野のまちを訪れる人

中野駅周辺エリアマネジメントビジョン(たたき台)

3つのストーリーを取組の方向性として、取組を進めた先の2030年のまちの姿(目標)をストーリーごとに設定しています。

3つのストーリー

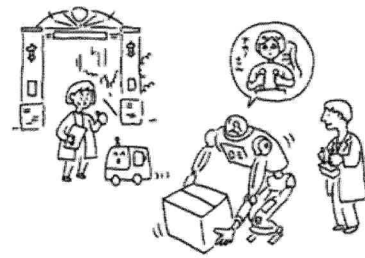
2030年のまちの姿(目標)

■ 文化の増埒

新しい文化が日常に 溶け込んでいるまち



挑戦するまち



寛容性のある中野の風土をベースに、地域、企業が連携しながら、絶えずまちのなかで新たなチャレンジができる環境がある。

チャレンジを通じて各地区の文化や魅力を生み出し、磨き、つなぐことで、漫画やアニメ、音楽に加え、新しい象徴的な文化が生み出され、日常に溶け込んでいる。

7

中野駅周辺エリアマネジメントビジョン(たたき台)

アクションにつながるストーリー

将来像を実現するアクションアイデア

文化の増埒

2030年のまちの姿 新しい文化が日常に 溶け込んでいるまち

アクションアイデア (構成員の意見)

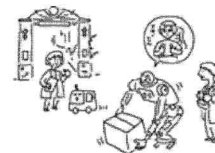
- 新たなプロダクトを生み出す
- 音楽やアートの発信拠点をまちなかにつくる
- アートの教育をする
- 新たなイベントをつくる
- 個店の出店を支援する
- 映像の撮影場所として誘致する
- 文化振興のワーキングチームをつくる



2030年のまちの姿 挑戦するまち

アクションアイデア (構成員の意見)

- 社会実験を繰り返す
- 小さい事業者がチャレンジできる場をつくる
- 先端技術である運搬ロボットを導入する



社会実験「あぐる、QRUWA」

社会実験「PUBLICLIFE KASHIWA」

8

中野駅周辺エリアマネジメントビジョン(たたき台)

3つのストーリー

2030年のまちの姿(目標)

■ まちのアップグレード

回遊性があり、
東西南北が一体に
つながっているまち



空間が豊かに
使われているまち



エリアとして
安全安心なまち



各地区をつなぐ安全で快適な歩行者動線の整備、また各地区における新たなパブリックスペースの整備により、新たな人の流動と活動を促すことで、中野駅周辺の回遊性やまちなかにおける人の滞留が創出されている。また、人の回遊や滞留を支える安全安心なまちづくりが進められている。基盤整備を進めていく一方で、既存の中野の良さは残す。

9

中野駅周辺エリアマネジメントビジョン(たたき台)

アクションにつながるストーリー

将来像を実現するアクションアイデア

まちのアップグレード

2030年のまちの姿

回遊性があり、
東西南北が一体につながるまち

アクションアイデア (構成員の意見)

- ・ パーソナルモビリティなど、新しい移動手段を導入する
- ・ まちなかに滞留空間を創出する
- ・ 4地区をつなぐ、アートイベントを仕掛ける
- ・ 民間投資を呼び込む交通ネットワークを検討する



2030年のまちの姿

空間が豊かに使われているまち

アクションアイデア (構成員の意見)

- ・ イベント実施時の許可申請のワンストップの体制づくり
- ・ 道路を使ったイベントの開催
- ・ 工事中の取組みを検討、推進する



ヨルノヨ-YOKOHAMA CROSS NIGHT ILLUMINATION -



2030年のまちの姿

エリアとして安全安心なまち

アクションアイデア (構成員の意見)

- ・ 災害への戦略を立てる
- ・ 避難できる場所や*逃げ地図をつくる

*逃げ地図

：各自治体のハザードマップなどを基に、地域住民が自身で作成する避難用の地図のこと。



10

